

大河も水の一滴から,出来ることから始める

日本都市青年会議

監事 小川 俊一

私たち日本都市青年会議は、2011年に陝西省渭南市潼関県で黄河台地に銀杏や油松等の植樹協力を始めてから中華全国青年連合会の協力のもとに緑化と地域交流を続けています。

現在は、湖北省宜都市・江西省都昌県・安徽省安慶市の3か所で長江中流域の緑化活動に取り組んでいます。

2015年は5月21日～25日にかけて、湖北省宜都市に2回目の訪中団を派遣し、植林活動と地域交流を重ねました。植林地では、湖北省・宜昌市・宜都市の各青年連合会の皆さんや宜都市をはじめ地元行政の方々や中学生等青年ボランティアの皆さんと植樹に汗を流しました。植林地周辺は、ミカン畑と茶畑が山の頂まで伸びる地域で日本の風景と変わらない温暖で穏やかな土地柄で心が和みます。昨年植林した桐の木も順調に生育しており活着率も優れていました。

また、地域交流では宜都市第一中学校を訪問させていただき、学校教育の一端を見学させていただくと共に、教職員や生徒との懇談会を通して、日中の環境教育の実情や日本の学校教育や文化等について鋭い質問を主に生徒から受け、答えに苦慮しながら、日本への関心の高さや知識の豊富さに舌を巻きました。

次に6月25日～30日にかけて、安徽省安慶市と江西省都昌県を併せて訪中団を派遣しました。安慶市では、安慶市・懷寧県の青年連合会の皆さんや懷寧県党委員会をはじめ地元行政の方々と共に既に植林地のみならず村の施設や村内の様子も含めて見学させていただきました。とりわけ植林地を管轄する懷寧県平山鎮長との懇談では、植林の効果や村の実情や課題等も忌憚なく話し合わせ大いに参考になりました。

また、ここでも安慶市懷寧県平山鎮中心小学校を訪問させていただき、児童との交流を図りました。

江西省都昌県では、都昌県青年連合会・都昌県黄クチナシ産業協会の皆さんと地域住民の方々と一緒に植樹を行いました。都昌県での植林樹種は、主にクチナシで、クチナシ産業基地では山全体が覆われていました。昨年の訪中は4月で、次は花の咲く頃に来てくださいと言われていましたが花の盛りが過ぎた6月の訪中となりました。開花中は山全体が真っ白となり観光の名所ともなってきたと思いがけない効果もあらわれたようです。クチナシの実は漢方薬の原料等として、花はお茶等に活用されており、加工の施設も稼働し始めて経済林としての成果も現れ始めてきました。

いつも、植林の起工式では「大河も水の一滴から,出来ることから始める」と話をしていきます。これからも、この気持ちで緑化活動に取り組んでいきたいと思えます。



江西省都昌県で一諸に植林した現地住民たちと
日本都市青年会議



安徽省安慶市懷寧縣平山鎮中心小學校を訪問
日本都市青年会議

